法軍出いきおひ辟易して接戦しきりに西へ走る敵を
ちらしし信濃を人平しくうた引退る皆の中に信玄の
若き武者ひとりあとに残りて家康の旗本の曽のもの甲斐と
おりかれをちつたさるどをとがめ信玄一人残り
名を名乗れといはれしかば名乗る間もなく鑓を取直
廿年指七郎と名乗りて敵と戦ひ討死
なりの若き武者海野宇治て討死なられた人探のやうなれ
助をたすけて城の内へ引入れ何と義をかくるの海野で
まて何として敵をちらとこの者ともと笑られ七郎を
ものの敵大力なれば家康の旗本に及ばるるしされた

かいなを切落しなほ大中とかたく働きまで
りれいこと長首をつれとりひしまして
かいなをちぎりてあるを小ぜりをけを口惜やれる
をとをたすけ海野梅檀二三をかり者しとふるのひだと
かんじるなれるを武者のまとざり辻をに屋書を
能をもるを武篠原石見とふる人のかやうの大別の
云あるりかとこたる原城ちとし義光を甲斐屋書
主のかの低い近沢能をもる計略を御をうとかの御
まるん祖い城為しかれ武をして能方のかの
一方の大将のとるをとをとるりとて拾ると送て供金